

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4093000034
法人名	有限会社 ベストライフ
事業所名	グループホーム ちくし永岡の里
所在地 (電話番号)	福岡県筑紫野市永岡1489-1 (電話) 092-922-3812

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年8月20日	評価確定日	平成21年9月29日

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	6人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.8人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 3階建ての2階部分
------	-------------------

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	290 円	おやつ	円
	または1日当たり 790円			

#### (4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	6 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小西第一病院 / えのもと歯科医院 / 医療法人牧和会
---------	-----------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ちくし永岡の里は、利便性が高い街なかの住宅地に位置し、1階は小規模多機能型居宅介護・2階はグループホーム・3階は高齢者専用住宅で構成されており、地域貢献をモットーに運営が行われている。近郊には、大型ショッピングセンターや飲食店・医療機関・公園などがあり、買物や散歩などを楽しむことができる環境を有している。地域で住み続けることができるように、小規模多機能型居宅介護との連携により、よりスムーズなグループホームへの入居ができるように支援している。特に力を入れて取り組んでいるのは地域との交流で、地域の訪問野菜販売を受け入れたり、自治会の活動への参加など積極的に活動している。運営母体は、この他に2ヶ所のグループホームを運営しており、全てのグループホームで低料金のサービス提供に取り組んでいる。施設長・管理者・職員は、低料金ながらも質の高いケアやサービス提供を目指して日々取り組んでいる。今後は、職員のスキルアップを目指し、同法人のグループホームとの連携により研修の充実などに取り組む予定である。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義は、会議にて全職員に周知している。外部評価の結果に関して、全職員で検討し運営に活かしていきたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、定期的に2ヶ月に1回開催しており、地元の行政区役員・民生児童委員が参加しているが、家族の参加がない状況である。運営推進会議でグループホームの現状を理解していただき、家族の意向なども把握するために家族参加を求めていく必要がある。家族会の発足も予定しており、運営推進会議への家族参加の取り組みを積極的にすすめていくことが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の意見や意向などは、面会時に家族とのコミュニケーションを図り、直接言っていたるように努めている。今後は、家族の意向を把握するために家族会の発足を予定している。今後の取り組みに期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し夏祭りや敬老会・サロン・清掃活動など行事やイベントに参加している。また、学生の実習も受け入れている。週1回、社会福祉団体の作業所による訪問野菜販売を受け入れ社会貢献を行っている。グループホームの開設1周年記念では、子ども会など地元に関わりかけ参加していただいている。今後は、高齢者ケアのサービス拠点として、介護相談や認知症の理解を育む活動などに期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「福祉・人権・環境・教育・平和は皆平等の精神で地域社会に貢献できる介護施設を目指す」ことを理念として掲げ、地域貢献をモットーに、どのような境遇の方でも入居できるように理念にそって取り組んでいる。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は申し送りの際に唱和し、理念を礎として地域貢献の意識を高め、施設長・管理者・職員が理念の実現に向けて取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入し、夏祭り・敬老会・サロン・清掃活動など行事やイベントに参加している。学生の実習も受けて入れている。週1回、社会福祉団体の作業所による訪問野菜販売を受け入れ社会貢献を行っている。グループホームの開設1周年記念では、子ども会など地域からの参加があった。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	外部評価の意義は、会議にて全職員に周知している。外部評価の結果に関して、全職員で検討し運営に活かしていきたいと考えている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、定期的に2ヶ月に1回開催しており、地元の行政区役員・民生児童委員が参加しているが、家族の参加がない状況である。運営推進会議でグループホームの現状を理解していただき、家族の意向なども把握するために家族参加を求めていく必要がある。		運営推進会議への、家族参加を促すために家族会の発足を予定している。今後の実践的な働きかけが期待される。また、運営推進会議の議事録の充実が望まれる。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム ちくし永岡の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	行政の担当窓口とは、困難事例やサービス提供に関わる問題などについて、相談できる関係を構築している。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	権利擁護に関する制度の理解を育むために学習会を開催している。現在制度を活用している入居者がおり、管理者が社会福祉協議会と連携しサポートしている。職員は状況報告を行い制度の理解を育んでいる。学習会開催の記録の充実等、今後を期待したい。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	ホーム便りは2、3ヶ月に1回作成し、ホーム行事の際の写真などを掲載し暮らしぶりを伝えている。家族より、けがや病気に対して連絡や対応が早い点で評価が高い。今後は、ホーム便りの内容の充実と共に発行頻度の増加など期待したい。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族の意見や意向などは、面会時に家族とのコミュニケーションを図り、直接言っていただけるように努めている。今後は、家族の意向を把握するために家族会の発足を予定している。今後の取り組みに期待したい。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の異動の際には、入居者とのなじみの関係に配慮し、入居者がダメージを受けないように配慮した人事異動を行っている。また、同建物内でのマンパワーの応援体制があり、状況に応じてマンパワーの確保により必要なサービスが提供できる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	採用にあたっては、介護経験の有無に関わらず、人間性や働く意欲などを中心に採用している。研修は、同企業のグループ内での連携による研修の充実を予定しており、職員が目標を持ち、生き生きと働ける環境づくりに期待したい。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム ちくし永岡の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	虐待拘束に関わる学習会を行っている。今後は、虐待拘束にとどまらず、「認知症ケアにおける人権尊重」などテーマを広げ、学ぶ機会を持つことを期待したい。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	介護労働安定センターの研修に主任クラスが参加し、職員への伝達研修を行っている。全体的に研修の機会が少なく、研修記録の充実も求められる。職員が意欲や目標を持ち生き生きと勤務できる研修体制の充実が求められる。		職員のスキルアップや定着化を図るためにも研修の充実が必要である。また、研修記録(実施日・内容・参加者・伝達研修の確認など)の整備が必要である。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同業者からの空き室の情報交換などは行っている。また、小西第一病院の医療ネットワークにより、同業者との情報交換の機会はある。今後は、同業者とのネットワーク構築を目標に勉強会の開催や相互のホーム訪問などを期待したい。包括支援センターや行政の窓口など仲介を相談してはいかがだろうか。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	建物1階に小規模多機能型居宅介護を展開し、グループホームの入居にあたっては、小規模多機能型居宅介護と連携し、デイや宿泊を行いながら入居に至るケースを想定している。小規模多機能型から入居へと連続したサービスの展開により、徐々に職員とのなじみの関係を構築し、安心して入居できるように取り組む体制がある。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	洗濯物たたみや花壇・畑づくりなど本人の能力に応じて役割があり、一方的に介護される側にならないように取り組んでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

## グループホーム ちくし永岡の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話や観察により、入居者の暮らしのスタイルを把握し、これまでの暮らしの延長といった視点で支援している。今後は更に認知症ケアにおけるアセスメントとして、生育歴や生活歴を掘り起こし、日々の入居者の意向を把握していくことが求められる。</p>		<p>既に法人内のグループホームで採用しているセンター方式の導入を検討しており、その人らしい介護計画を作成していきたいと考えている。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、日常の情報交換やミーティングなどで計画を立てている。介護計画に関しては、関わる職員や家族との意見交換の場が必要であり、特に職員にとっては情報の共有化により統一したケアが実施できる。家族の意向も組み入れることが重要で今後の取り組みに期待したい。</p>		<p>センター方式の採用を予定しており、今後は家族からの情報収集も充実していくと考えられる。家族の協力を得ながら、アセスメントを介護計画に結びつけていく必要がある。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の状態は簡潔にわかりやすく介護記録に記録されている。入居者の状態や状況の変化に応じて、随時見直している。介護計画の短期目標にそった日々のモニタリングの実施など今後に期待したい。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>1階の小規模多機能型居宅介護との連携により、グループホームへの入居が、よりなじみの関係に配慮しながら実現できる環境を有している。また、多彩なサービス事業の展開により、マンパワーの応援があり、状況に応じたサービスやケアの提供が可能である。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の意向にそって、かかりつけ医の受診を支援している。受診や往診にあたっては、家族の意向を確認しながら、適切な医療が受けられるように支援している。</p>		

グループホーム ちくし永岡の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期のあり方について、今後の課題と考えているが、できる限りの支援を行っていききたいと考えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	居室への入室や排泄などの対応について、日々のケアやサービス提供の中でプライバシー保護に配慮し、声かけや対応に全職員で注意している。入居者の話も個人情報の観点から配慮し、職員の言動に関しては、その都度、職員間で注意を促している。記録などの個人情報は事務所で保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	朝の食事は寝ていたい方・食べたくない方など、希望に応じて起床時間や食事の摂取の工夫など状況に応じて支援している。日課としてラジオ体操などがあるが、職員の都合ですすめるのではなく、入居者の意向や体調にそって、その日の過ごし方を決めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	入居者の能力に応じて、食事の下ごしらえや食器拭きなどを手伝っていただいている。職員も入居者と共に関わり合いながら、利用者や職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	原則として1日おきの入浴となっているが、状態や希望に応じて入浴できるように取り組んでいる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム ちくし永岡の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	週1回、訪問野菜販売があり、自分で好きな果物など購入できるように支援している。調査当日は、訪問販売の日であり、入居者の皆さんは買物を楽しんでおられた。また、童謡を皆さんで楽しく合唱されていた。その他、畑づくり・手芸・ゲーム・計算など日々のレクに取り入れ、楽しみごとの支援を行っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	機能維持の取り組みとして、散歩や近所のスーパーなど出かけている。公園など環境に恵まれている点を活かし、日々の散歩の充実など取り組みを期待したい。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	身体拘束の学習などを通し、深夜の時間帯を除いて鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	災害対策は、職員間でマニュアルの周知に努めている。建物が3階建てである点も考慮し、迅速な対応の訓練が必要である。今後は消防署との連携により消防訓練を行うことが必要である。また、その際には地域の参加・協力を求めることも必要である。		消防署との連携により、早急に消防訓練の実施が必要である。その際、消防訓練の実施状況や実施内容などの記録が求められる。また、消防訓練時には、地域の協力・参加が必要のため、運営推進会議で働きかけていくことも必要である。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事・水分摂取量を記録し、共有している。水分摂取量は1500ccを目標にしているが、摂取できない方もおられる。家族との相談により、好みの飲料を購入するなど摂取量の確保が望まれる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム ちくし永岡の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は明るく、ベランダには洗濯物が干してあり、壁には入居者が作成した手作りの作品が飾られ、家庭的な雰囲気となっている。壁側にはゆったりと座れるソファがあり、くつろげる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は全室明るく、仏壇や箆笥など、思い思いの品々が持ち込まれ、これまでの暮らしの延長としての工夫があり、居心地の良い空間となっている。居室の入り口(ドア)付近に個人の住まいとしての工夫(表札などの工夫)があれば、もっと家庭的な雰囲気になるのではと思われる。今後に期待したい。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			